

第3回墨田区介護保険事業運営協議会 議事要旨

日 時 平成24年12月20日(木) 午後2時00分から(午後4時00分終了)
場 所 東京清風園地域交流スペース

1. 開会
2. 前回協議会における墨田区高齢者福祉総合計画・第5期介護保険事業計画の説明に係る質問事項等
3. 報告事項
 - (1) すみだ介護福祉フェア2012実施報告【資料1】
 - (2) 第2回介護保険事業運営協議会サービス部会報告【資料2】
 - (3) 第2回介護保険地域密着型サービス運営委員会報告【資料3】
 - (4) 第3回地域包括支援センター運営協議会報告【資料4】
4. 平成24年度第5期介護保険事業実績(上半期)【資料5】
5. 元気な高齢者の地域活動
元気高齢者施設「いきいきプラザ」での活動
6. 閉会

閉会后、希望者には東京清風園の施設見学を予定していたが感染症予防のため、中止した。

【配布資料】

【資料1】 すみだ介護福祉フェア2012実施報告

【資料2】 第2回墨田区介護保険事業運営協議会サービス部会報告

【資料3】 第2回介護保険地域密着型サービス運営委員会報告

【資料4】 第3回墨田区地域包括支援センター運営協議会報告

【資料5】 平成24年度第5期介護保険事業実績

【資料6】 第2回墨田区介護保険事業運営協議会議事要旨

【その他】 墨田区高齢者福祉総合計画・第5期介護保険事業計画(概要版)

第3回墨田区介護保険事業運営協議会 出席者

氏名	所属	出欠
◎ 和気 康太	明治学院大学教授	出
○ 鏡 諭	淑徳大学教授	出
小西 啓文	明治大学准教授	出
石川 幹夫	すみだ医師会	欠
湯沢 伸好	本所歯科医師会	出
柳 正明	墨田薬剤師会	出
堀田 富士子	東京都リハビリテーション病院	欠
吉田 政美	墨田区民生委員・児童委員協議会長	出
今牧 茂	墨田区社会福祉事業団事務局長	出
深野 紀幸	墨田区社会福祉協議会事務局長	出
古市 吉弘	特別養護老人ホームはなみずきホーム施設長	出
○ 安藤 朝規	弁護士・墨田区法律相談員	出
荘司 康男	墨田区障害者団体連合会会長	出
本間 久也	墨田区老人クラブ連合会副会長	出
北村 嘉津美	町会・自治会	出
及川 栄子	墨田区介護相談員	欠
濱田 康子	すみだケアマネージャー連絡会代表	出
小谷 庸夫	墨田区訪問介護事業者連絡会	欠
加藤 みさ子	介護保険サービス利用者	出
佐藤 和信	第1号被保険者	出
石井 啓子	第2号被保険者	出
坂本 康治	墨田区企画経営室長	欠
中橋 猛	墨田区保健衛生担当部長	欠
大滝 信一	墨田区福祉保健部長	出

◎ 会長 ○ 副会長

事務局出席者	高橋 宏幸	介護保険課長
	渡邊 久尚	高齢者福祉課長
	吉井 公司	介護保険課管理・計画担当主査
	中山 厚子	介護保険課事業者指導担当主査
	江上 寿恭	高齢者福祉課高齢者相談担当主査
	小高 こずえ	高齢者福祉課高齢者相談担当主査
	奥野 邦子	高齢者福祉課高齢者相談担当主査
	石井 一枝	介護保険課管理・計画担当主事
	大場 智加	介護保険課管理・計画担当主事
	鈴木 有花梨	介護保険課管理・計画担当主事

1 開会

- (事務局) 墨田区介護保険事業運営協議会を開催する。本日は、会場となっている東京清風園の施設見学を予定していたが、区内特別養護老人ホームでノロウィルスの集団発生があり、本日の施設見学は中止としたい。来週には、介護保険事業者を集めて、ノロウィルスの対策について、臨時の説明会を行う予定である。収束に勤めたいので、よろしくお願ひしたい。本協議会は、審議会等の公開に関する基準に基づき公開することになっている。本日は、傍聴希望者はいない。また、この会議を録音することについて了承をお願ひしたい。
- 資料の確認をさせてもらう。

－配布資料の確認－

2 前回協議会における墨田区高齢者福祉総合計画・第5期介護保険事業計画の説明に係る質問事項等

【その他】墨田区高齢者福祉総合計画・第5期介護保険事業計画（概要版）

- (事務局) 前回の協議会では、時間の関係で質疑応答を割愛したので、何か質問等があれば、この場で受けてたい。
- (会長) 保険料はいくらになったのか。周りの区に比べてどうなのか。
- (事務局) 保険料は5,400円で、高いほうから3番目である。

3. 報告事項

【資料1】すみだ介護福祉フェア2012実施報告

－資料1の説明－

- (A委員) 参加人数が少ない。東京都社会福祉協議会では、毎年、東京国際フォーラムで「介護のコト体験フェア」を行っている。学生対象の就職情報などを積極的に提供していた。魅力ある企画をして、もっと人を集めるようにしたほうがいい。
- (B委員) 地域の掲示板や回覧板でも回っていた。いい内容なのに学習する人が少ないということである。老人クラブや町会に動員をかけるぐらいやらないと集まらない。行きやすいように交通手段も考えてほしい。
- (副会長) いい企画だと思うので、続けてほしい。イベント的発想も必要だが、地域の高齢者に集ってもらいポイントを絞って、PRしていくなど、みまもり相談室を中心に考えたらどうか。
- (事務局) 日常的に老人クラブや町会の会合に出席し、制度などを説明したりしている。機器の展示や実演までは無理があるが、地域に入っていく中で、介護フェアについても積極的にPRしていきたい。
- (C委員) 内容は、すごく良かったが、手話通訳がないと内容が分か

らない人もいる。

(事務局)

今回配慮が足らなかったの、次回、検討していきたい。

(A委員)

1週間は長いのではないか。「介護のコト体験フェア」は1日だけで、いろいろな事業者が器具などについて紹介する。緊急通報システムも熱感知やポットの水量で安否を確認する物など改良されてきている。携帯をうまく使うなど墨田区独自のシステムなどを考える必要があるのではないか。

(事務局)

みまもり相談室事業は、東京都のシルバー交番事業の補助を受けている。その中で、緊急通報システムの普及啓発も行っている。熱感知については、オプションとして希望者には、提供している。地域に入っていく中で、積極的にPRしていきたい。

(D委員)

寸劇に感動した。医師会、歯科医師会でもチラシを病院で配布することはできる。

(会長)

いい企画を出して、PRに工夫を凝らし、手話通訳などの情報保障を行い、車など参加者のアクセスを高める工夫をする必要があるということだと思う。日頃から地域に学ぶ機会を作り、顔の見える関係を作らなければ、なかなか来てくれない。いろいろ努力し、たくさんの人に来てもらい輪を広げていくことで、墨田区としてレベルアップしていくことになる。予算や人員などの難しい問題もあると思うが、そのような方向で進めてほしい。

【資料2】第2回介護保険事業運営協議会サービス部会報告

－資料2の説明－

(会長)

重要な論点が出されていると思う。制度の崩壊につながりかねないものもあるが、すぐに解決できる内容ではないので、論点をはっきりさせておいて、次の制度改正に向け、働きかけていくということだと思う。区としてやれることはしっかりやっていくということだと思う。

(E委員)

2025年には、病院のベットは2倍になり入院期間は1/2になるとも言われているが、その対策をどのように考えているのか。

(事務局)

認知症高齢者グループホームなどの地域密着型サービスの整備を進めている。

【資料3】第2回介護保険地域密着型サービス運営委員会報告

－資料3の説明－

(会長)

認知症高齢者グループホームのユニット数を3以下とし、小規模特養の定員を4人以下、ユニットの定員を12人以下にすることについて、区議会に上程するということか。

(副会長)

墨田区として条例化する中で、この3つについて、特徴的に位置づけたということである。

(事務局) 認知症高齢者グループホームのユニット数が、原則2ユニットのところ地域の実情に合わせて、3ユニット以下というのは、国基準であり、小規模特養の定員を4人以下、ユニットの定員を12人以下にすることについては、都基準の広域特養に合わせてある。地方に比べて、多くの人が入れるようになっている。

(会長) 他の区も同じような状況なのか。

(事務局) この部分をどうするかが、23区の課長会でも話題になっている。国の基準を引用する区と、変えていく区が半々程度と聞いている。

【資料4】第3回地域包括支援センター運営協議会報告

－資料4の説明－

(会長) 気になるのはUSBの扱いである。情報管理をしっかりとやってもらいたい。ウイルスでデータが壊れることに気をつけなければならない。

4. 墨田区介護保険事業実績報告（平成24年度上半期）

【資料5】平成24年度第5期介護保険事業実績

－資料5の説明－

(E委員) サービス部会の報告にもあったように病院の必要ベット数が倍に増え、入院期間が半分になるような今後の状況について、地域密着型などのサービスの供給が間に合う見込みなのか。

(事務局) 民間の整備について、区が補助金を出して整備を促進しているところである。

(F委員) 病院の必要ベット数が倍に増え、入院期間が半分になるというのは、データに基づく部会の公式見解ではないので、誤解のないような表記が必要ではないか。

(会長) 高齢者が増えて、要介護高齢者が増え、医療依存が高い人が増えていけば、病院が倍々ゲームで増えていかない限り、入院期間が短縮されて、地域に出されていくことは間違いない。その時、地域に受け皿があるかどうかの問題で、医療関係を整理しておかないと、在宅医療や在宅介護が進まないということになる。介護保険改正で、一方で、保険料は上がっていくが、新たに介護と医療の連携について、整備を進めていると思う。

墨田区は、極端に整備率が低いわけではなく、23区で比べても遜色なく整備は進んでいると思うので、心配する必要はない。表記については、誤解のないようにしてほしい。

(副会長) 新しく導入された定期巡回随時対応型訪問介護・訪問看護について、8月からサービス提供が始まっているが、どのような利用形態になっているのか。

- (事務局) 要介護1が4人、要介護2が5人、要介護3が2人、要介護4が3人、要介護5が5人である。退院したばかりの時は、緊急コールが多いが、しばらくすると落ち着いてくるようである。
- (副会長) このサービスは、今回の法改正における目玉だが、成り立つ所とそうでない所が出るのではないかと思う。墨田区は、人口が密集しているので、導入しやすいのかもしれないが、次回、事例を5例ほど資料として提示してほしい。
- (会長) 墨田区は、ジャパンケアが入っているのか。
- (事務局) 墨田区の太平に事務所がある。
- (副会長) 国は、サービス付き高齢者住宅で居住系を確保して、定期巡回随時対応型訪問介護・訪問看護を入れることで、施設サービスと同様の環境が提供できるとしているが、進捗状況はどうか。
- (事務局) サービス付き高齢者住宅の所管である住宅課とどのように進めていくか、国の方針を踏まえながら協議を始めたところである。
- (会長) 東京都の会議に出ているが、サービス付き高齢者住宅は、地域偏在があり、適正配置をどうしていくかが課題である。居住福祉とどのように結びついていくのか、これからの課題である。墨田区も前向きに取り組んでいると思うので、今後も情報提供をしてほしい。

5. 元気な高齢者の地域活動

元気高齢者施設「いきいきプラザ」での活動

- (事務局) 前回の運営協議会で元気な高齢者の地域活動をどのように促進していくかを議論することになったので、元気な高齢者の地域活動の一つの例として、いきいきプラザの活動を紹介したい。いきいきプラザは、区内3つある元気高齢者施設の一つである。NPO法人ワーカーズコープに指定管理をお願いしている。現在2期目の最終年であるが、第4回区議会定例会で3期目の指定について承認を得たところである。
- いきいきプラザ施設長に説明をお願いする。

ーパワーポイントによる説明ー

- (E委員) 若い人をどのように集めているのか。
- (施設長) 区内中学校で実施している職場体験で、中学生が来て、シニアの人と活動を共にしてくれたり、職員を手伝ってくれる。
- 今、元英語の先生だった80代の人が教えているシニアの英会話教室とフィリピンの人が教えているキッズイングリッシュとのコラボを企画している。キッズイングリッシュは、夕方、お母さん達が子どもを連れて、英語を習いにくるが、そのお母さん達が、戦争体験や子どものしつけについて、シニアから聞きたいということなので、是非、実現したいと考えている。ま

た、比較的権利意識が強く、ボランティア感覚が薄いかもしれない団塊の世代とうまくコラボして、70歳、80歳、90歳代の人達と一緒に何かできないかと考えている。

(A委員)

いきいきプラザはすごいと思う。高齢者支援総合センターのエリアごとに2つあればいいのではないか。

公園を活用して建てればいい。

(F委員)

元気高齢者施設が北部に固まっているので、南部での整備が強く要望されている。また、都市公園法で、敷地の10%しか建物が建てられないので公園活用は難しいが、統廃合した学校跡地などで検討していきたいので、永い目で見守ってほしい。

(C委員)

聴覚障害者が参加したら孤独を感じるのではないか。

(施設長)

車椅子で来る人もいるし、手話教室もある。

手話教室は、最初、全く聞こえない人と少し聞こえる人とボランティアで手話を習った人3人が、トレーニングマシーンに参加できるかと問い合わせたことがきっかけだった。参加については、全く問題はなく、現在、麻雀教室にも参加している。その中で、何か手伝いたいということで、3人が手話教室を展開してくれることになった。先日のお祭りでは、手話が上手になった30人ぐらいの人が、歌を披露してくれた。それを見た人から手話教室の希望が増えたので、3教室増やすことにした。このように館内で、手話ができる人が増えているので、孤独感を感じさせることはないと思う。

(会長)

利用者延人数が、最初2万5千人だったのが6万人と言うのは、確かに需要があるということだと思う。早急には難しいかもしれないが、随時8か所ぐらいあれば、その効果は大きいと思う。

6. 閉会

(会長)

閉会する。